

# WS-38,38N型 電池式電磁弁

製品記号 WS38-F (ねじ込)  
WS38N-F (ねじ込、水道法性能基準適合品)

バルブコントローラ付  
水道法性能基準適合品 (WS-38N型)

## 散水設備 など

電池式のWS-38型シリーズ(ねじ込形)は、バルブコントローラによる弁開閉制御が容易に行える電磁弁です。パルス作動、永久磁石で弁開状態を保持する「自己保持機能」及び電池内蔵のバルブコントローラによる組み合わせで、制御盤や電源ケーブルが不要です。

### ■特長

- バルブコントローラを組込んでいますので制御盤、ケーブルが不要です。
- 作動時のコイル消費電力は2Wです。
- 手動開閉機構付です。
- バルブコントローラは時刻、曜日など様々な設定条件で使用可能です。
- プログラム制御に限らず、バルブコントローラのスイッチで手動散水も可能です。

### ■仕様

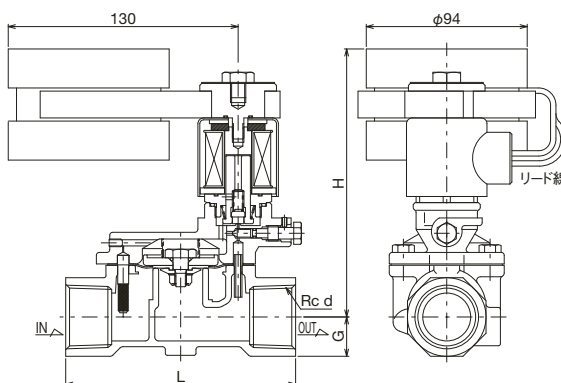
作動	通電開	
型式	WS-38型	WS-38N型
製品記号	WS38-F	WS38N-F
呼び径	15~50	
適用流体	水	
流体温度	5~60℃ (管端コア使用の場合5~40℃)	
適用圧力	0.05~0.75MPa	
定格電圧	DC6V (バルブコントローラ電源より供給) 注1.	
定格電流	0.33A	
消費電力	2W	
弁開時間	約1~2秒	
弁閉時間	5~30秒	
絶縁種別	B種	
周囲温度	5~50℃	
保護構造	防噴流形 (IP55相当)	
端接続	JIS Rcねじ	
材質	本体 (CAC406)、ダイヤフラム (NBR)	
取付姿勢	水平配管にコイルを上にした正立取付	
本体耐圧試験	水圧にて2.0MPa	水圧にて1.75MPa

- 注1. バルブコントローラの電池は9Vアルカリ乾電池 (「6LF22」又は「6LR61」) をご使用ください。(別売品)  
 注2. 9Vアルカリ乾電池は、1年以内に必ず交換してください。  
 注3. 本弁を配管に取り付けたとき、永久磁石により弁開状態となっている場合がありますので、流体を流す前に必ず次の操作を行ってください。  
 [付属コントローラにて「手動散水」操作を行ってください。その後「手動散水中止」操作により弁閉し、使用可能状態となります。]  
 注4. アンクル形も製作しています。(端接続 JIS Rねじ)  
 注5. バルブコントローラ無のWS-39型も製作しています。  
 (ただし、動作にはパルス電圧切換のコントローラ又は制御盤が必要です。詳細についてはお問い合わせください。)  
 注6. 管端コア内蔵品も製作しています。  
 注7. レインセンサー付属 (簡易検知型) も製作しています。(降雨時に雨量を感知して散水を止めます。)  
 注8. ソーラーパネル付 (充電式) も製作しています。  
 注9. 呼び径選定図表は、346頁をご参照ください。

### ■寸法表

呼び径	d	L	G	H	Cv値	質量 (kg)
15	1/2	110	16	137	4	1.9
20	3/4	110	16	137	5	1.9
25	1	120	21	142	9	1.9
32	1 1/4	135	25	147	11	2.6
40	1 1/2	145	29	154	16	3.1
50	2	170	35	162	22	4.4

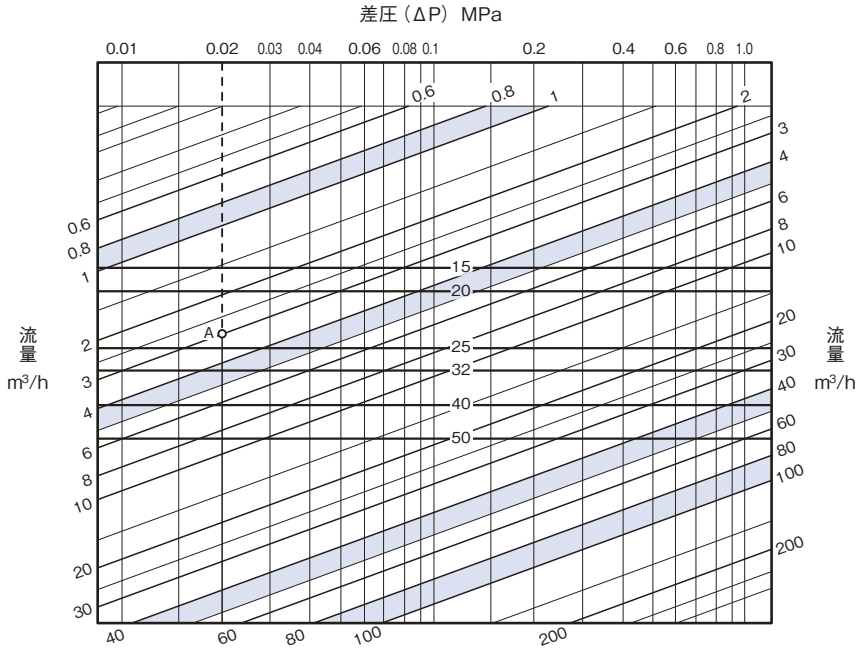
### ■構造図



資料/WS-18,18A型 赤水防止電磁弁(水・空気用)  
WS-38,38N型 電池式電磁弁(水用)

呼び径選定図表<水用>

適用型式 WS-18,18A型  
WS-38,38N型



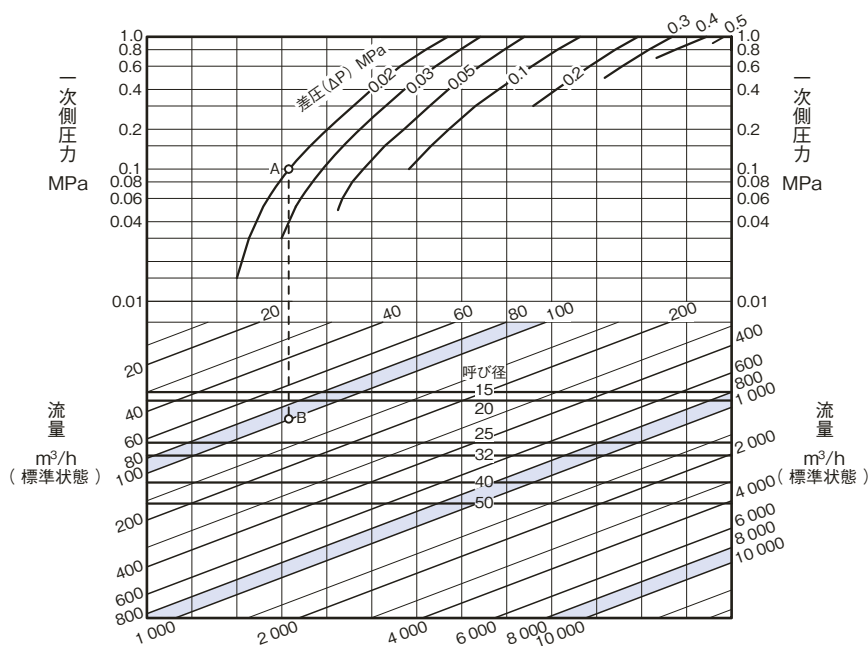
●図表の使い方

一次側圧力0.3MPa、二次側圧力0.28MPa、水の流量3m³/hの条件における呼び径を求めます。

この時、差圧(ΔP)は0.3-0.28=0.02MPaとなります。差圧(ΔP)=0.02MPaを垂直にたどって、流量3m³/hとの交点Aを求めます。A点は呼び径20と25の間にありますから、大きい方の呼び径25を選定します。

呼び径選定図表<空気用>

適用型式 WS-18,18A型



●図表の使い方

一次側圧力0.1MPa、二次側圧力0.08MPa、空気(20°C)の流量100m³/h(標準状態)の条件における呼び径を求めます。

この時、差圧(ΔP)は0.1-0.08=0.02MPaとなります。一次側圧力0.1MPaと差圧0.02MPaとの交点Aを求めます。

A点より垂直にたどって、流量1000m³/hとの交点Bを求めます。B点は呼び径20と25の間にありますから、大きい方の呼び径25を選定します。

# 資料/電磁弁設置上のポイント

**注意** 設置時やそれに関する注意事項は、それぞれ別に用意された取扱説明書をご覧ください。

図1. 配管例略図

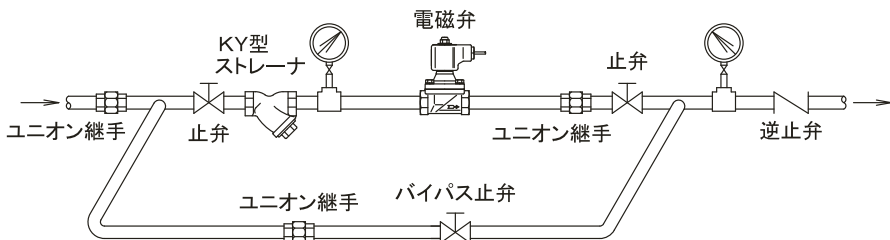
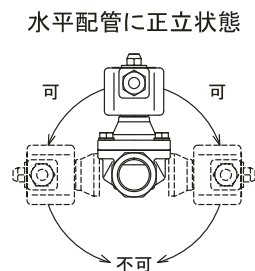


図2. 取付姿勢略図



## ■選定、設置上のポイント

- 電磁弁の一次側にストレーナを取り付けてください。(図1参照)  
※網目：国土交通省仕様は、電磁弁の前に設ける場合は80メッシュ以上。
- 運転を止められない装置の場合、電磁弁の一次側から二次側へのバイパス配管(止弁を設置)を設けてください。(図1参照)  
また、バイパス配管を設置しない場合は、電磁弁の一次側止弁手前に主管から分岐したブロー用止弁を設置し、フラッシングができるようにしてください。
- 取付姿勢は、水平配管にコイルを上にした正立姿勢で取り付けます。(図1,2参照)  
ただし、桃太郎シリーズ(PS/PF-16,17型を除くはん用タイプ)の呼び径50以下は水平配管にコイルを上にした正立から水平(真横)までの取付姿勢で縦配管にも使用できますが、弁前後の差圧が0.03MPa以上必要となります。(図2参照)  
また、TB-03型端子箱付の場合、端子箱の電線挿入部が下向きとなるように取り付けてください。
- 電磁弁の二次側圧力が一次側圧力より高くなる場合は、弁閉できず逆流しますので、二次側には逆止弁を取り付けてください。(図3参照)
- 蒸気に使用する場合で、電磁弁が閉止した際に、二次側圧力が負圧となるような場合には、電磁弁の二次側に真空調整弁(バキュームブレーカ)を取り付けてください。(図4参照)
- 蒸気用の場合は、配管系にスチームトラップを取り付けてください。
- 流体が液体の場合、弁閉時のウォーターハンマ現象や周囲温度による熱膨張により、配管内が昇圧する場合があります。機器などの保護のためレリーフ弁を取り付けることを推奨します。また、ポンプの吹込み側に電磁弁を設置する場合、負圧による作動不良の原因となりますので、電磁弁を弁開状態の後、ポンプ起動となるシステムとしてください。(図5参照)
- コイルの結線には0.75mm<sup>2</sup>以上の電線を使用し、正しく結線してください。また、電気回路保護用として、ヒューズを入れてください。
- コイルは連続通電や断続を繰り返した状態ですと、表面が約70℃位まで温度上昇しますので高温には注意してください。(使用条件、型式により上昇温度は多少異なります。)
- 電磁弁は、流体の流れ方向と製品に示す流れ方向の矢印を合わせて取り付けてください。
- 分解点検時には、スペースが必要です。必ずメンテナンススペースを確保してください。  
※メンテナンススペースについては、製品個々の取扱説明書にてご確認ください。
- 電磁弁には、配管の荷重や無理な力・曲げ及び振動がかからないよう配管の固定や支持をしてください。
- 凍結の恐れがある場合は、水抜きや保温などをしてください。  
ただし、コイル部分は保温しないでください。

図3. 二次側立ち上がり配管

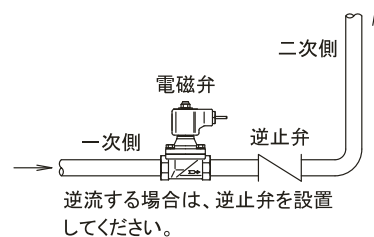


図4. 蒸気配管使用例略図

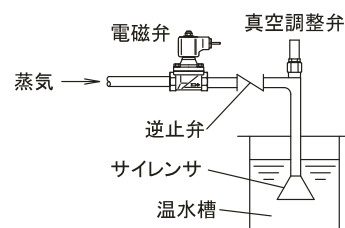
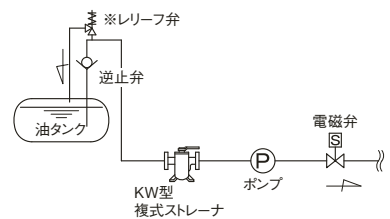


図5. レリーフ弁取付例略図



※熱膨張などで昇圧が予想される場合は、レリーフ弁を取り付けてください。